

市指定文化財候補 打出焼 概要

- 1 所有者 芦屋市
- 2 収蔵場所 芦屋市伊勢町 12-25 芦屋市立美術博物館
- 3 種類及び数量 合計 309点
(陶器…290点、瓦…5点、釜道具…3点、その他…11点)

4 概要

打出焼は、明治43(1910)年に阪口庄蔵(号・砂山)が現在の芦屋市春日町に開窯し、昭和40年代まで作られた焼き物。打出丘陵は、良質な粘土が産出することで知られていた。これに着目した斎藤幾太が明治39(1906)年に琴浦焼(現尼崎市)の創始者・和田九十郎正隆の協力を得て、現在の芦屋市楠町の自宅庭でお庭焼きをはじめ、番頭を勤めていた阪口を作陶に係わらせたことがきっかけとなった。

明治43(1910)年に独立した阪口は、大正3(1914)年には、合資会社打出焼陶器工場を資本金1万円で設立。

『武庫郡誌』(大正10〔1921〕発行)には、「製品は主として日用品一切、花瓶、菓子器、茶器類等にて」「主として大阪、神戸、灘、東京及び奈良方面へ販売す」と記されている。

昭和12(1937)年に初代砂山が死去し、阪口敦が2代目砂山を継ぐ。

昭和40年代になると、付近の住宅開発に伴い陶土が得られなくなり、2代目もこの頃から体調を崩したため、作陶を中止。昭和48(1973)年には、春日土地区画整理事業の伴い、窯が取り壊された。

本資料は、郷土史家の藤川祐作氏が昭和62(1987)年から蒐集されてきたもので、令和2年に「藤川祐作コレクション」芦屋市が寄贈を受けたものである。



【写真1】 打出焼（一部）



【写真2・3】 打出焼の刻銘